

未来づくり懇談会（山苗代）会議録

日 時：平成30年2月1日（木）

18：30～20：01

場 所：山苗代自治公民館

出席者：矢板市長、教育長、総合政策部長

1 開 会 18：30 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

3 出席者紹介

4 矢板市設定テーマ

持続可能な片岡地区のまちづくりについて

・資料に基づき、人口・高齢化率推移等について説明。

Q1 人口減少について。いかに人口を増やしていくか。どのような市の考えがあるのか。

A1 「矢板で安定した仕事を創る」、「矢板に新しい人の流れを作る」、「矢板で結婚・出産・子育ての希望を叶える」といった取り組みをバランスよく積み重ねていく必要があると思っている。

安定した仕事を創るということでは、矢板南産業団地への企業誘致が必要。少しでも、身近に勤められる職場を作っていきたい。

平成28年12月	矢板市企業紹介冊子作成 矢板市企業研究セミナー開催
平成29年2月	やいたUターン意見交換会開催
平成29年11月	矢板市企業紹介冊子作成 作新祭出展
平成30年2月	保護者向けセミナー開催
平成28年度	高野商運、東色ピグメントの進出決定
平成29年度	小出鋼管の進出決定

矢板に新しい人の流れを作るということでは道路整備。代表的なものは矢板北スマートIC。周辺の沿線開発や、産業振興に役立つのではないかと思います。またフットボールセンターの整備。これからは定住人口だけではなく、交流人口を増やしていく取り組みも併せて必要だと思います。

結婚・出産・子育ての希望を叶えるということでは、周辺の市町に負けないような子育て環境、医療環境を整備していく必要がある。婚活イベントも本年度矢

板市としては初めて取り組んだので、継続していきたいと思っている。併せて、市内に家を建ててもらいやすくするような取り組みも必要なので、「暮らし」のびのび定住促進補助金という制度を見直し、加算措置を組み合わせると最大100万円になるように今度の議会で提案する。

◆婚活支援

平成29年11月 地域少子化対策重点推進事業交付金を受けて事業実施
矢板市未来づくりプロジェクト
「やいた de ハッピーチェーン」5回実施 延べ156人

平成30年5月 矢板市婚活イベント企画運營業務委託を実施

◆「暮らし」のびのび定住促進補助金

平成23年度～平成29年度

利用件数546件 1843人 交付金額281,800千円 転入世帯30.4%

平成29年度実績

利用件数91件 296人 交付金額48,500千円 転入世帯40.7%

平成30年4月より補助金額を拡充

用地購入 20万円(10万円増)

市内業者を元請とする新築 10万円(5万円増)

特定地域加算(矢板駅西地区) 20万円(新設)

新築住宅に太陽光発電設備を設置 最大10万円(新設)

5 意見交換

Q1 ゴミ焼却場について。今どのような状況まで進んでいるか、

A1 塩谷広域行政組合の次期環境施設については、昨年暮れに正式な名称を募集し「エコパークしおや」という名称となり、去年9月に着工した。

現在の焼却施設は平成30年11月30日を稼働期限として約束しているので、それまでに安沢の施設を稼働することが必要であったが、工事請負契約に関する議案が、平成28年2月の塩谷広域行政組合の議会で否決されたため、改めて整備内容や具体的な額の設定の手続きのため、着工が遅れたことで、完成が遅れてしまう状況となっている。

Q2 矢板市内の産業団地や工業団地では何割くらい矢板市民を採用しているのか。

A2 具体的な数字は把握していないが、市内の企業で働いているのは、市民の方が一番多いということは間違いないと思う。

Q2 学校教育について。例えば小学校、中学校でも何らかの付加価値をつけた宣伝文句を作り小中学校でもエリアを広げてはいかがか。著名な人が養成できれば、なお良い。

A2 小中学校については行政区割があり、そこを越えて子どもを招き入れるのは難しい。矢板市で教育費を持って他市の子どもを教育するということになるので、行政負担の問題もあり難しいと思う。転居して矢板に来るとことを狙っていき

いと思う。学力が少しずつ上がることが魅力になると考えている。

また、ふるさと教育といって、矢板市を好きになる、矢板市の素晴らしいところを学んで、将来いろいろなところに出て行っても戻ってくるような教育をしていきたい。魅力があれば子どもたちも寄ってくるようになるし、人口も少しずつ増えるのではと思う。

Q 3 サッカー場を作るのであれば、東小でサッカーの英才教育をしたりできないか。

A 3 矢板中央高は全校生徒700人のうち161人がサッカー部員。その多くは、矢板市外とか、栃木県外からで、北は北海道、南は沖縄まで生徒が来ている。矢板中央高校とうまくタイアップし、卒業後、大学や専門学校に行った後も、矢板に戻ってきてくれるような、うまい流れが作れればと検討している。

Q 4 新春マラソン大会のコースをもっと細かくするために、工業団地の下に農道があり、高塩まで通じているので、それをぜひ全面舗装にしてもらいたい。

A 4 農業土木関係、土地改良や農道整備、農業施設の改修などは予算がつきにくくなっている。要望をして頂いていないのであれば、行政区長を通して要望してほしい。

Q 5 市道50号線が玉田まで抜ければ宇都宮の方にも行けるので、整備をお願いしたい。

A 5 今後、企業が立地をしていくと、現在のアクセス道路のみだと、今のままで良いのかという話になるので、よく考えていきたい。

Q 6 人口減により小さい行政区を合体させようという考えが始まっているかもしれないが、山苗代は小さくても独立行政区でやらせてもらいたい。

また、車に乗れない人がまちなかに移動できる対策を考えてほしい。

A 6 行政区の合併のあり方については、様々な意見があり、今までの行政区単位では事業ができないので合併したい。また、公民館の建て替えをするために合併をしたいという声もある。その一方で、これまでの地域コミュニティのまとまりを維持していくためには、単に合併するのはよくないだろうというご意見もある。

各行政区の考えを尊重する中で機運が高まれば、市としては後押ししていくが、無理に山苗代をどこかを一緒にするという事はない。

移動手段については、80歳以上の方を対象に今年4月から福祉タクシー券を月に2枚、年間24枚を交付する事業を始める。いろいろ試行錯誤しながら、形にしていきたいと思う。

平成 29 年 10 月	75 歳以上の市営バス無料乗車券交付事業の実証実験
平成 30 年 4 月	65 歳以上の運転免許証自主返納者の市営バス無料化
	65 歳以上 75 歳の誕生日まで
平成 30 年 4 月	75 歳以上の市営バス無料乗車券交付事業の本格実施
平成 30 年 4 月	福祉タクシー券交付事業の見直し

85歳以上 → 80歳以上 ※年齢引き下げ
月2枚（最大24枚） → 年24枚
市外タクシー業者との協定実施

Q7 防災無線が聞こえない。

A7 防災無線は聞こえないという一方、うるさいとの話がある。音声電話サービスやメール配信サービスを活用してほしい。先月、くらし安全環境課で聞こえにくさ調査を全域で行った。結果をよく分析して必要な対応を取ればと思う。

平成29年5月	防災行政無線放送確認電話番号のチラシを全戸配布
平成29年6月	防災メール登録及び防災行政無線放送確認電話番号のチラシを全戸配布。
平成29年11月	防災行政無線放送確認するためのフリーダイヤル（通話料無料）電話番号のチラシを全戸配布。
平成30年1月	防災行政無線の聞こえ方調査を実施

6 閉 会 20:01